

林業普及情報カードA

提出年月日 平成27年5月13日

番号	3	森林室(事務所)名	十勝総合振興局森林室普及課							
情報の種別	専門分野・専門項目									
	普及方法	森林経営		施業技術			林産		その他	
	普及方法	林業経営	森林機能保全	造林	林業機械	森林保護	林産	特用林産	木育	その他
標題	コンテナ苗植栽に係る功程調査の実施									

- 1 日時 平成27年4月30日(木) 10:00~15:00
- 2 場所 浦幌町字万年(211林班14小班 浦幌町森林組合所有林)
- 3 実施機関 浦幌町森林組合(林業試験場からコンテナ苗の支援を受けた事業体)
- 4 調査機関 北海道水産林務部林務局森林整備課  
(十勝総合振興局産業振興部林務課<連携: 森林室普及課>)
- 5 参加者 浦幌町森林組合3名、(有)飯田林業4名、  
十勝総合振興局林務課6名、釧路総合振興局林務課1名、  
十勝総合振興局森林室16名  
(室長・主幹(地域総合管理)・普及課4名・森林整備課10名) 計30名
- 5 目的 コンテナ苗の適切な植栽方法及び植栽功程、植栽後の成長の差異等についてのデータの蓄積が必要であるため、低コスト施業の普及・定着の一環として実施。
- 6 内容 カラマツのコンテナ苗と裸苗について苗の規格及び植栽功程調査を実施。

区分	コンテナ苗	裸苗
植栽面積・本数	各0.24ha・各500本(2,083本/ha当たり)	
苗規格	マルチタイプ150cc	山行き3号
使用器具	鍬120本、スパード140本 テーブル120本 プランティングチューブ120本	鍬500本

4班編制、各班に作業従事者と測定者(時間等)2名1組で、上記の使用器具をそれぞれ全部使用し測定を実施。

結果・分析については今後森林整備課で取り纏めを行うが、当日の状況から植栽に要した時間順でコンテナ苗では、テーブル>プランティングチューブ>スパード>鍬であり、コンテナ苗には専用器具が合致するかたちとなった。作業従事者の率直な意見(要した時間は関係なく)としては、①鍬と②専用器具を比較した場合、腰への負担では②が断然有利である、器具の扱い易さでは鍬>スパード>テーブル>プランティングチューブの順で、②ではスパードが手軽さ・扱い易さから評判が良く、テーブルやプランティングチューブは力が必要なため、長時間使用となると特に女性の場合は温度差が出る。しかし、従事者の作業習慣とコンテナ苗運搬の容易さから、「コンテナ苗を鍬で植える」という意見が一番であった。



裸苗<3号苗>



コンテナ苗



使用した専用器具

※コンテナ苗専用器具は十勝西部森林管理署から借用したもの



テーブル使用状況



プランティングチューブ使用状況



# コンテナ苗植栽功程調査 (H27.4.30)



1 カラマツコンテナ苗(容器マルチキャビティ150CC)



2 カラマツ裸苗3号(規格D=6<sup>2</sup>、H=30<sup>2</sup>)



3 専用器具 左からダブル・プランティングチューブ・スベード



4 植栽地の状況



5 コンテナ苗 鍬使用



6 コンテナ苗 スベード使用



7 コンテナ苗 ディブル使用



8 コンテナ苗 プランティングチューブ使用



9 コンテナ苗植栽後



10 裸苗(山行き3号)植栽後